

令和6年奥能登豪雨災害を踏まえた奥能登地区流域治水対策検討部会（第2回）
議事概要

1. 日時：令和7年3月26日（水）14:00～15:30
2. 場所：石川県庁行政庁舎11階1102会議室
3. 出席者：別紙「出席者名簿」の通り
4. 議題：
 - 1) 奥能登地区緊急治水対策プロジェクト（案）について
 - 2) 協議
 - 3) 今後の予定について
5. 開会（挨拶：石川県土木部長）

本検討部会について、第1回を昨年度の11月26日に開催し、その後4カ月間の短い期間の中で事務局と調整をしながら、各関係機関においては、幅広い対策について検討して頂いたことに感謝申し上げます。

各関係機関の協力のおかげで、奥能登地区緊急治水対策プロジェクト（案）をとりまとめることができた。

奥能登地区の今次洪水を踏まえた再度災害防止のため、早期の復旧・復興、さらに今後おこりえる洪水に対して、流域全体の安心安全の暮らしを早期に確保することが求められる。

これを実現するためには流域内のあらゆる関係者が連携し、上下流のハード・ソフトの両対策を緊急的かつ一体的に進める必要がある。

本日のプロジェクト（案）については、各関係機関の取り組みをまとめたものとなり、部会の中で皆様に審議願いたい。

6. 議事

- 1) 資料1_奥能登地区緊急治水対策プロジェクト（案）について
 - ア 流域の関係機関が連携した緊急的かつ一体的な流域治水対策の推進（P1～P5）
 - ア) 石川県土木部河川課より説明
 - 質疑応答
 - 特になし。
 - イ 河川・砂防の応急対策状況（P6）
 - ア) 石川県土木部河川課より河川の応急復旧状況を説明
 - イ) 石川県土木部砂防課より砂防の応急対策状況を説明
 - 質疑応答
 - 特になし。
 - ウ 河川における対策（P7～P15）
 - ア) 石川県土木部河川課より河川の本復旧・改良工事を説明

- イ) 国土交通省北陸地方整備局河川部より塚田川の本復旧・改良工事、町野川及び支川鈴屋川の本復旧・改良工事、珠洲大谷川の本復旧を説明
- ウ) 石川県土木部河川課より治水対策の継続的な効果維持を説明
- エ) 輪島市、珠洲市、穴水町、能登町より堆積土砂の除去と継続的な効果維持を説明

○質疑応答

特になし。

エ 集水域における対策 (P16～P20)

- ア) 石川県土木部砂防課より砂防堰堤や地すべり防止施設整備の推進を説明
- イ) 国土交通省北陸地方整備局河川部より砂防堰堤や地すべり防止施設整備の推進を説明
- ウ) 石川県農林水産部農業基盤課よりため池の活用、農地・農業水利施設の整備を説明
- エ) 石川県農林水産部森林管理課より治山施設および森林の整備・保全を説明
- オ) 林野庁近畿中国森林管理局石川森林管理署奥能登地区山地災害復旧対策室より治山施設および森林の整備・保全を説明

○質疑応答

特になし。

オ 復興まちづくり計画等との連携 (P21)

- ア) 石川県土木部河川課より復興まちづくり計画等との連携を説明

○質疑応答

特になし。

カ 避難行動の支援・市町への避難情報発令の支援等 (P22)

- ア) 石川県土木部河川課より避難行動の支援・市町への避難情報発令の支援等を説明

○質疑応答

特になし。

キ 気象情報の充実・周知 (P23～P24)

- ア) 気象庁金沢地方气象台より気象情報の充実・周知を説明

○質疑応答

特になし。

ク 関係者が連携した流域治水 (P25～P28)

- ア) 石川県土木部河川課より代表事例箇所として塚田川流域、町野川流域、南志見川流域等、若山川流域を説明

○質疑応答

特になし。

(その他意見等)

<輪島市>

- ・能登半島地震の後、今回の水害による二度の被災によって、非常に大きな被害を受けたということで、本当にこの地域が安心して暮らしていくことが可能なのかといった心配の声が、多くの市民から出ている。
- ・治水や治山といった対策の計画をしっかりと進めて頂き、一日も早い地域の安心安全を確保して頂きたい。

<珠洲市>

- ・河川の対策は、農業の水利にも関わってくるものであり、さらには、住宅の自力再建に向けた復興においても影響があるため、早期の対策を講じて頂きたい。

<石川県農林水産部>

- ・能登半島地震および奥能登豪雨によって農地やため池が被災している状況であり、農地については、大規模な被害を受け河川の改修に合わせて復旧も4～5年かかるものもあるが、順次、復旧を進めていきたい。

<国土交通省北陸地方整備局河川部>

- ・今回の災害では、下流に土砂や流木が流出しており、河川・砂防サイドとしても土砂や流木の対策といったものはしっかりと行っていくが、農林サイドでは、河川や砂防よりもさらに上流側で出てくる流木を止める治山施設の整備も行っていくと認識しているので、引き続き調整や連絡を密に行わせて頂き、しっかりと連携させて頂きたい。

2) 協議

<輪島市>

- ・地震や豪雨による災害を受け、治山や森林整備は、非常に重要であると感じており、これまで以上にスピード感をもって対策を講じて頂きたい。
- ・輪島市の市ノ瀬や鈴屋川上流では土砂災害による避難指示が、いまだ発令されており、こういった箇所についても早期の対策を行ってほしい。

<珠洲市>

- ・再度災害を非常に懸念しており、上流部の流木や堆積土砂の除去は思うように進んでいないというのが現実である。
- ・出水期まで時間が限られている中で、国の管轄、県の管轄、市の管轄といった割り振りを越えた体制を築いていくことが大切なのではないかと思う。
- ・洪水浸水想定区域の見直しについては、外浦の16河川だけでなく暫定版でも良いので、出水期までになるべく多くの河川の情報が欲しい。

<穴水町>

- ・特に意見なし。

〈能登町〉

- ・流域治水の中では、二級河川の役割が非常に大きいのではないかと思うため、より一層の治水事業の推進をしてほしい。

〈国土交通省 北陸地方整備局 河川部〉

- ・流域治水は、多くの機関が関係しており、連携・調整を図ることが重要である。
- ・小さい河川においても同様で、関係機関が一体となって対策を進めていく必要がある。

〈林野庁 近畿中国森林管理局 石川森林管理署 奥能登地区山地災害復旧対策室〉

- ・できる限り早期の対策ができるよう取り組みを推進していきたい。

〈国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター金沢水源林整備事務所〉

- ・関係機関と協力をしながら、水源林整備の方を進めていきたい。

〈気象庁 金沢地方气象台〉

- ・関係機関と今後も連携をしっかりと図っていきたい。

〈石川県 危機管理監室〉

- ・洪水浸水想定区域の見直しの時期が2段階に分かれている理由を説明して欲しい。

(石川県土木部河川課回答)

- ・能登半島の外浦に位置する河川は、地形変動の影響が大きいいため、まずはそういった河川を重点的に見直すかたちになっている。
- ・珠洲市の若山川や鶴飼川などといった内浦側は外浦側と比べて地形変動の影響が少ない状況ということもあり、まずは、状況の確認を行っている。そのため時期が2段階に分かれている。
- ・外浦側でない住民の方々も、洪水浸水想定区域をなるべく早く確認したいと思われるので、令和8年出水期と言わずなるべく早く作業をお願いしたい。
- ・ハード面は土木サイド等が中心となると思うが、ソフト面は県や市町の防災担当などが連携してやっていくと思っている。
- ・ハザードマップの見直しについては、今しばらく時間がかかると思うが、ホットラインで繋がっている气象台などからなるべく早く雨の情報が頂ける体制は整っている。
- ・仮設住宅に住んでいる住民は、普段と違う所に住んでいるため洪水浸水想定区域をしっかりと市町が周知することが重要である。
- ・出水期前までに各関係機関の連携体制を今一度確認していくことが重要である。

<石川県 農林水産部>

- ・農地については大量の土砂が堆積している状況であるが、比較的小規模な被災箇所については、今春の営農に向けて応急復旧を進めているところである。
- ・河川の氾濫による大規模被災にて農地が原形をとどめていない箇所も存在する。このような箇所については、河川の本復旧に合わせて進めていかなければならない側面もあり、河川の復旧が農地の復旧等に繋がっていくことから、関係機関との連携をしっかりと行っていきたい。

<石川県 土木部>

- ・ハード対策は、関係機関が並行して同時に対策を行っていかねば効果を発揮しないのではないかと思う。
- ・上流で土砂・流木を止め、下流で河川を改修するといったことを進めるためにも、各機関の情報共有は非常に重要になる。
- ・上下流一体のハード対策は、効果を大きく発揮するがハード対策には、どうしても限界がある。
- ・ハード対策だけでなくソフト対策が重要となり、奥能登豪雨では水位の上昇が早く避難のリードタイムが取れないといった課題がある。実際の水位から避難判断をするのではなく、水位上昇の予測と合わせていくことが今後重要となる。

3) 資料 2_今後の予定について

- ア 「奥能登地区緊急治水対策プロジェクト」の取り組み内容について、近日中に石川県土木部河川課のホームページなどで公開する。
- イ 今回の結果を踏まえ、今後「奥能登地区流域治水協議会」を開催し、「奥能登地区緊急治水対策プロジェクト」を反映した各水系の流域治水プロジェクトの承認を受ける。

○質疑応答

特になし。

7. 閉会（挨拶：珠洲市）

我々奥能登の人間は、毎日崩れた山肌、その山腹に横たわっているおびただしい倒木、河川に堆積している土砂・流木を見ている。今年の出水期に、また豪雨が襲うと同じ災害が繰り返されるのではないかと危機感を持っている。

そうした中で示されたロードマップの中で、出水期までにどこまでできるのか、下流域の土砂や流木の撤去は進んでいるが、上流域では、ほとんど手つかずの状態である。

国、県、市で仕事を分けていては、今後も進まないと思う。政府タスクフォースなどに県が踏み込んで進めていってもらえればと思う。

今後関係機関が連携することは重要だが、目先の出水期までにどこまでできるのかが、非常に重要である。